

無意味な意味の

尾形亀之助読書会

第38回 平成30年3月17日(土)

午後3時～午後4時45分

場所：大河原町駅前コミュニティセンター

「多目的ホール2」

参加資格：特になし(要連絡) 参加料：無料

テーマ：『語り継がれる詩人の理由

～塩竈出身の詩人・朴英徳のこと～』

話者：小熊昭広(詩誌『回生』)

現代詩において、作者不詳で詩のみが語られることは稀である。詩が忘れられるということは、個人が際立つ現代においては、同様に作者である詩人が忘れ去られることになるのではないだろうか。詩と詩人の関係でいえば、その逆も同様である。たとえ、印刷物として作品が残っていたとしても、人の記憶の中で蘇らなければ、詩人あるいは詩は語られることはない。詩人にとって、作品の数量や質は大して意味を持たない。それと同様に詩人が語り継がれることも当人にとっては大して意味を持たない。

【朴英徳】

昭和32年、あるいは昭和33年に出生。塩竈市出身。仙台で発行された総合文芸誌『水脈』に第2号(1982年8月発行)から第6号(1983年12月発行)まで参加し、詩を発表。その後、塩竈市の俳誌『小熊座』に参加する。1988年から1994年にかけて詩誌『回生』に詩や俳句を寄稿。しばらくして、大崎市に住まいを移し、一児をもうけ、2009年11月13日に消息を絶つ

<詩誌『回生』では、朴英徳さんに関する情報を求めています。>

詩誌『回生』では、朴英徳さんにこの作品集を発行したいと考えております。しかし、本人は消息不明の状態です。ご家族やご親戚に関する情報もありませんので、出版の承諾を得ることができないでいます。朴英徳さんに関する情報がありましたら、どんな情報でもかまいませんので、詩誌『回生』小熊までご連絡いただくとありがたいです。

主催 詩誌『回生』

連絡先：宮城県柴田郡大河原町大谷字原前50の5 小熊方

携帯：090-5230-2349

URL：<http://www.poetic.jp/kaisei/>

メール：kaisei@poetic.jp